

序文

口述終了 昭和九年七月三十一日

今後未だ四十巻の口述

本巻

中々の重荷 多忙な口述者にとって

内容

払う 猛獸邪鬼 葭原の国土に棲息して悪事をなす

樹立 新しき国土（くに） 御通代神（みひしろがみ）の熱誠

附録

君が代の国歌について

母音 左右対称的に対照

韻律 美

表徴 皇国日本 厳正中立の精神

総説(1)

皇道に表れた神の意義

四種

幽の幽

天之烽火夫（あまのみねひお）の神

天之御中主神（あめのみなかぬしのかみ）

および別天神（ことあまつかみ）まで

幽の顕

天照大神、

神素盞鳴尊等

神位に坐します神霊

体神（現体） 幽の幽神の御水火（みいき）より出生

顕の幽

大己貴命、

少彦名命等

一旦地上の現界に、その尊姿を顕現して、顕実界を主宰したまいたるが、定命（じょうみょう）
尽きて、神界に復活され、幽体となられた

菅公、楠公、豊公、その他 現人没後の神霊

顕の顕

現人神（あらひとがみ）

万世一系の皇統を垂れさせたまいて、世界に君臨したまう

天津日継（あまつひつぎ）天皇の御玉体（おんぎよくたい）

宇宙、神、万物

大原

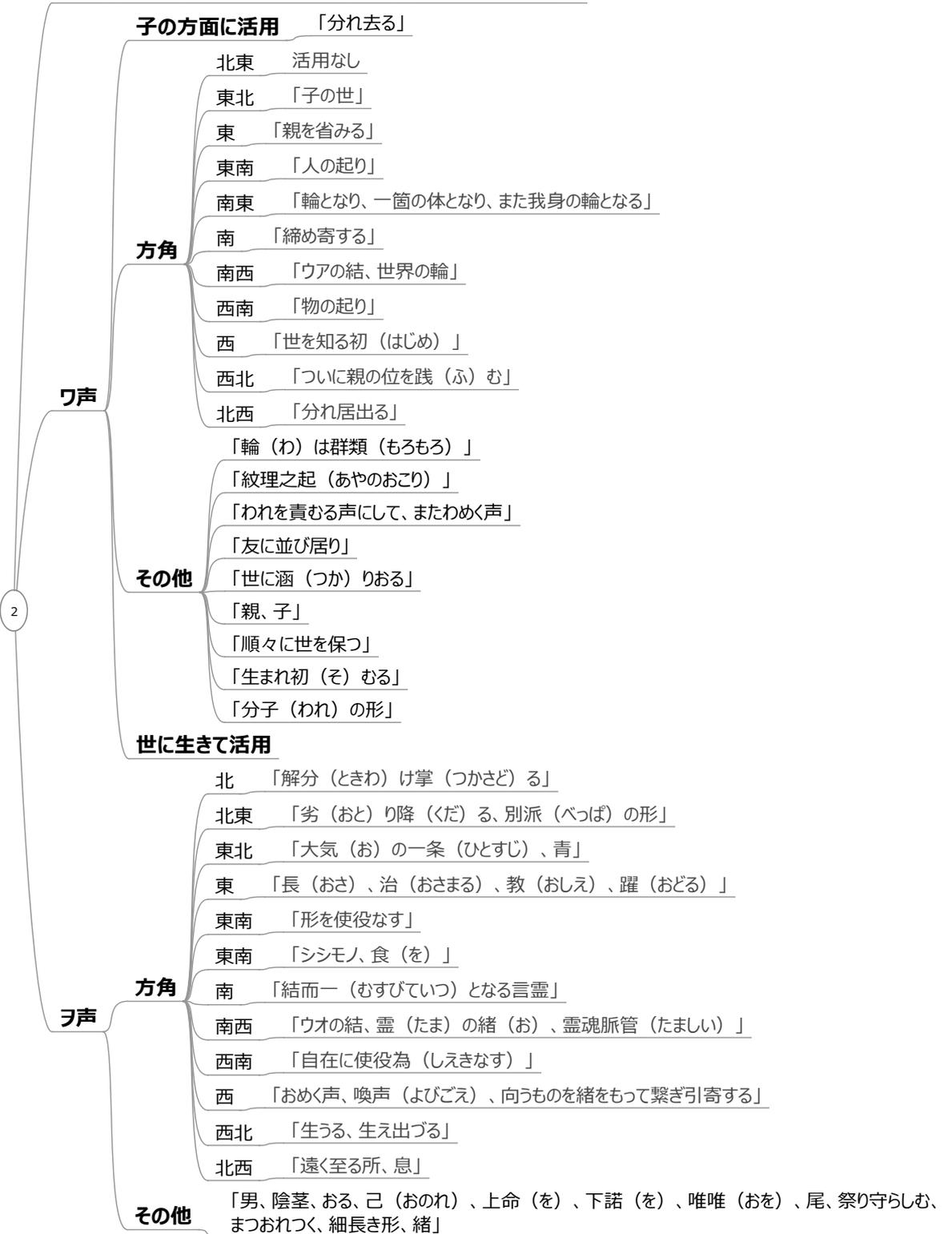
幸わい坐して、成り居出ませる

天之烽火夫の神

大宇宙の大極元の言霊

総説(2)

皇道言霊学 (こうどうことたまがく) 上より見たる声音の一部



総説(3)

ウ声

方角

- 北 「後(しりえ)に豊(と)む」
- 北東 「籠(こも)り据(すわ)る、据り見る」
- 東北 「潤う」
- 東 「謡う、売れる、結び成りあがる」
- 東南 「失(う)する、疑い初(そ)むる」
- 南東 「動き働く、浮き出る、上」
- 南 「上に成り移る言霊、寿(いのち)の所在」
- 南西 「ワウの結、生まれ出づる」
- 西南 「子の働き」
- 西 「生死を顕(あら)わす、働移行飢(ううる)」
- 西北 「移る、写す」
- 北西 「転(うたた)、蛆虫」

その他

「心の結、植え立つる、薄(うす)き、倦(う)む、結び立つ、中に立ち結ぶ、心痛(こころいたむ)、憂(う)き、醜(みにく)き」

エ声

方角

- 北 「刺劇(えぐ)る、また掘り行く」
- 北東 「剝(えぐ)り返す、片寄る」
- 東北 「兼ね合う」
- 東 「事照り輝く」
- 東南 「織り照らす」
- 南東 「刺し込む所、餌(え)」
- 南 「幸わい進み玉う言霊、また楽しむ所」
- 南西 「ウエの結び、恵み盛(さかん)」
- 西南 「保ち見る」
- 西 「事を執(と)る」
- 西北 「含み思う」
- 北西 「役(え)」

その他

「笑む、腹中之真(なかわたにまことある)、乳垂(ちちた)る、中腹(なかわた)に成就(なりつく)、必ず出づる、黜陟之権(つかうかて)有る、尚(たか)く行く」

イ声

方角

- 北 「移転之中央を束(つか)ね居る」
- 北東 「前後、大小、上下、左右、新古(しんこ)、善悪、正邪、美醜、軽重、長短、好悪、内外等の対照的言義」
- 東北 「三世(さんぜ)を一貫する、たちまち来りたちまち行く」
- 東南 活用なし
- 南東 「呼吸、不止居(とどまりおらざる)」
- 南 「世に立ち盛る言霊」
- 南西 「ワイの結び、通い直居(つつお)る」
- 西南 「いずれ」
- 西 「靈魂脈管(たましい)の全象」
- 西北 「イをもってイイを知る」
- 北西 「差別、往来、生死の類、一切の事、皆ことごとく、その中に立ちて、両端を釣りおる」

その他

「三世の瀬戸、寿(いのち)、呼吸之内(いのち)、今、現在電光の機関、枝葉無き、流に立つ、火の燈(とも)る形、世の階段に立ちおる、日ノ川」
 猪は一直線に走りて傍見(わきみ)をせざる性(さが)
 「猪首(いくび)、糸、蘭(い)」

総説(4)

ヤ声

方角

- 北 「内を貫く」
- 北東 「宿る」
- 東北 「やる」
- 東 「透明にして見えざる、経綸の形、天に帰る、指し難き」
- 東南 「天上より直射する光線、指し込む」
- 南東 「極（きわめ）で敏（はや）く見えざる、屋（や）」
- 南 「外を覆う言霊」
- 南西 「イアの結び、重（かさな）り騰（あが）る」
- 西南 「走り飛ぶ」
- 西 「地球を親しく包裹しおる、我を覆い渡りて常世の天を照しおる、裏面（とこよ）の天地（そこ）」
- 西北 「三つ重なる、八つ」
- 北西 活用無し

その他

「矢、焼、透明体なる天中固有の紋理（あや）、蒼洞（そうどう）、先天（あめ）の真気（そこたち）、固有の大父（たいふ）、親のイワレ、左旋、大輪の覆蓋（ほや）、おる」

ヨ声

方角

- 北 「離れ散る」
- 北東 「重なり下る、分れ散る」
- 東北 「生而後（うまれてのち）知る所」
- 東 「善美（よ）、よく張り合う、矢の道備う、祖先億兆、子孫億兆、却々却（ごうごうごう）を現在明らかに保ちおる」
- 東南 「東西南北現わるる」
- 南東 「必ず四間（よま）に成る、四ツに組む、四ツ」
- 南 「寄り結ぶ言霊」
- 南西 「ヤオの結び、天の下、世の中」
- 西南 「必ず正約存（ちかい）」
- 西 「螺旋（らせん）備わる、経緯（たてよこ）に樋（ひ）入る、驚き呼ぶ声、ヨヨヨヨヨヨヨヨ」
- 西北 「一極輪（ひときわり）、これをヨと言う」
- 北西 「縦（よし）、廃（よ）する」

その他

「半（なかば）、呼び出す形、寄り合う、億兆の現在所（げんざいしよ）、漂う形、（オノの棚引（たなびく））、天地火水纏（まと）まる形、よく指令（さしず）する、オノ既に起り備る時は、二二が四の方面必ず備り在る」

ユ声

方角

- 北 「指し集まる」
- 北東 「震（ゆす）り鎮（しず）むる」
- 東北 「機気（きき）の通（かよい）は敏速（するどき）、電気の種類」
- 東 「彼（かれ）よりこれに伸び立ち来たる、揺蕩（たゆとう）」
- 東南 「釣合う力、平均力の元、床（ゆか）」
- 南東 「湯の働き、沸き返る」
- 南 「起り行く言霊」
- 南西 「ヤウの結び、行き通う」
- 西 「幽顕、気質相交換する、寛（ゆるやか）に漂う」
- 西北 「体質の通は寛慢（ミノカヨヒ八寛）、火脈、腺脈、流水の類」
- 北西 「ヤヨの現在」

その他

「天の結姿（むすぶすがた）、蒸騰（むせのぼ）る、行き届く、努力（ゆめえた）、忌々（ゆゆ）、往来為（おうらいなす）、すべ震（ゆる）る、夢、これより彼に到り見る、これより彼を顧みる、弓の活用（はたらき）」

総説(5)

